

////////////////////////////////////

新型コロナワクチン後遺症患者の会

<神谷>症状について

・2021年6月2回目のワクチン接種の翌日に一睡もできないような体の辛さがあり、それ以降3年6ヶ月もの間、様々な症状が続いています。特に、代表的なものはひどい倦怠感とブレインフォグです。ワクチンを接種してから体が怠くなかった日は一日もありません。最初は怠くて寝返りさえも一苦労、息をすることだけでも疲れてしまい、トイレに行くのが精一杯でした。病院に行くとその後1週間起き上がれない、そんな日が長く続きました。ブレインフォグもひどく、人の話していることが解らない、文章を読んでもその意味が理解できない、もの忘れが酷すぎて3秒前のことも忘れてしまう、そんな状態でした。

1. 仕事の話

私は当時看護大学の教員でした。症状が出現した後は、怠さのため立っていただけられず、話していると息が切れます。何とか1時間半の講義を乗り切った後は息が切れてまともに歩けませんでした。仕事などできる状態ではなく休職せざるを得ませんでした。

その後も、症状の改善と悪化を繰り返し、体はどんどん動かなくなっていました。寝たきりになり天井を見ることしかやることのない生活に、私はこうやって一生を過ごすのかと絶望を感じました。1年半経っても職場復帰の見込みはなく、退職しました。

今は幸い寝込むことはなくなりましたが、今でも30分立っていると途端に怠くなり体が動かなくなるため、仕事に戻ることができず無職です。26年間仕事を続けてきたのに、ワクチン接種後に好きな看護の仕事ができなくなりました。

患者会には、このように未だにまともに働けていない患者が4~5割もいるのです。

2. 診療が受けられない話

私の場合、ワクチン接種の直後から症状が出たため、原因はワクチンとしか考えられませんでした。医師から、検査をしても異常がないためこれ以上はしようもないと匙を投げられましたが、新しい疾患だから仕方が無いとも思いました。

県のHPを探すと「ワクチン接種後の体調不良を受け入れる専門医療機関」があることが解ったのですが、県の担当者に電話しても一般の方には教えられないとしてその病院を教えてもらえない。仕方が無いため医師から県に電話をしてもらい紹介してもらいました。そんな苦労をして受診した専門医療機関の医師からも「異常がないので何もできない」と同じことを言われました。ワクチン接種後から体がおかしいと患者が言っているのに、解りませんと患者を見放す医師や自治体の対応にとっても腹が立ちました。

それでも私は「解らない」と言ってもらえた分まだ良い方です。多くの患者が、医師から「気のせいだから」「精神的なもの」と言われ、嘘つき呼ばわれされた患者もいます。

先日、ワクチン後遺症のお子さんのアンケートをお願いしたところ、医師からこのような言葉を言われたと報告がありました。

「コロナワクチンの後遺症なんてものはない、気のせいですね」
「学校で嫌なことがあったんでしょ？」
「どうせ昔から不登校だったんでしょ」
「本当に頭が痛いんですか？」
「ワクチンはもう忘れなさい、お母さんがずっとワクチンだって言うから治らない」
「ワクチンのせいだと思っているようですが、学校、家庭環境のストレスでしょう」
「国に頼まれて打っただけだから、何かあるなら市町村と国に言ってください」
「ここではもう診れません」
「僕がワクチンを打ったわけじゃないから関係ない」

このように体調不良を医師に信じてもらえず、心が傷つけられたお子さん、患者さんがとてもたくさんいます。

なぜ、このような対応になってしまうかと言えば、国がワクチン健康被害を認めていないからであり、医師がワクチン健康被害があることを知らないからです。3年以上経っても未だに診療が受けられないというおかしな状態であることをぜひ知って下さい。

3. 救済制度の話（隠れ否認）

私は救済制度の存在を県 HP で知りましたが、ブレインフォグのため何をすればいいのか理解ができなままでした。市に相談してみると、結局は受診した10箇所ほどの病院を自分で回って書類を集めないとならないことを知り、とつてもじゃないけれどそんな体力はないと、この患者を突き落とすようなシステムに泣きたくなりました。

結局、2年かかって救済制度に申請し、今年の5月に結果が届きました。結果は「倦怠感」に対して「2ヶ月のみ限定の認定」でした。長い間寝たきりが続くほど倦怠感がずっとあったにもかかわらず、たった2ヶ月の認定です。これは後遺症として認められておらず、意味としては「否認」なのですが、「認定」の枠に区分されます。つまり認定率としては上がって見えるため、私達はこの見せかけの一部認定を「隠れ否認」と呼んでいます。

私は厚労省審査会の議事録を取り寄せました。私に関する審査部分は7行で、音読すると40秒でした。たったの40秒で私の審査が終わっています。そして、その内容は「この後も認めると認定期間が長くなってしまふから短めにしておきましょう」といったものでした。どういうこと？と思いました。当然この結果が納得できないため、審査請求を行い、反論書を提出しました。これを書くのが本当に大変で、「仕事にも戻れていない患者なのに、なぜ私はこんな作業をさせられているんだろう」とずっと怒っていました。

このように救済制度も審査請求も患者にもものすごく大きな負担をかけるものです。元々患者自身が申請するように設計されていないとは言え、この制度は、果たして救済の意図で作られているものなのかと疑問に思わざるを得ませんでした。

<木村>症状について

1回目の接種後には、更年期障害と同じような症状が出ておかしかったので、2回目接種時の問診では「本当に大丈夫なんですか」と何度も質問したけれど、問診医は大丈夫と答えるだけでした。しかし、2回目接種の10日目ぐらいから、首を絞められるような息苦しさ、鎖骨から胸元全体の痛みが発生し、病院に駆けつけるも異常なしとのことでした。

1. 通院による家族の負担の話

・急性期には、壁伝いにしか歩けない、少し歩いただけで息切れがしてしまう、といった症状に苦しみました。荷物も全く持てないので、とても出勤できるような体ではありませんでした。

・通院のために何度も仕事を休まざるをえませんでした。

一人で病院に行けないから、主人は仕事を調整して毎回車で送ってくれました。しかしながら主人も自営業ですし、休めば休むほどどんどん収入も低下するので、家計にも負担ばかりがかかっていきました。

健康被害は、家族を巻き込むということも是非知っていただけたらと思います。

2. 救済制度に救済されない話（否認）

・医療費も結構かかりました。急性期にはとても救済制度提出に向けては動けなかったけれど、6か月かけて準備をし、やっと2022年の12月に提出ができました。

ですが、1年以上待って届いた結果は、否認でした。

・医師にも否定され、世間にも否定され、制度にも否定される。何度傷付けばいいのか、あの苦しみが心の問題だと馬鹿にされたような気持ちになりました。心を奮い起こして審査請求を出しましたが、その悔しさから心が蝕まれていくようでした。

・事実、弊会でも、救済制度に否認され無気力になってしまった患者からの連絡が増えてきています。救済制度に頑張って申請したのに、今度はこの不服申し立てと向き合わなければならないということが起きているのです。

私は審査請求のために、資料を一つ開示請求したのですが、それが、私が住んでいる市で行われた「予防接種調査委員会」という、いわゆる「救済制度申請のための会議」の議事録となります。しかしながら、読んで愕然としました。

・医療機関で言われた否定の言葉が、その議事録にも並んでいたからです。

先ほど神谷さんから紹介のあった、「病院で言われた言葉」の数々は、薬害根絶フォーラムの資料にも入れて頂いているので是非見て頂きたいです。このような発言をされる医師が、市区町村で行われる調査委員会に参加しています。

私自身も「不定愁訴が多いからワクチンではない」と決めつけて書かれていましたし、他の患者さんから見せて頂いたものには、患者が言っていないことも決めつけて記載されて

いました。

3. 3年経っているのに何も進まない（奈良は比較的進んでいると思ったけど医師は医師だった話）

・近くに住んでいる仲良くしていたおばあちゃん友だちも健康被害に遭いました。

それまでは、お米を30キロ持って歩くようなパワフルな方だったのに、今はフラフラの状態なのでそれどころじゃありません。

・実は奈良県では、救済制度のための書類の開示拒否をしないように、医療機関に通達を頂いたり、「受信証明書マニュアル」という資料を作って周知もされています。

これは患者会で陳情を出して行われた施策でした。

・しかしながら、今回お手伝いのために書類の収集に出向いた奈良の医療機関では、「ワクチンじゃないから書類は出さない」「制度について説明して貰わないとわからない」と言う医療機関もまだありました。

「忙しい中、書類を書いてやった」と表現する医師もいたり、紛失した領収書の代わりに支払証明を求めても、受付の人間が「出さない。」と頑なに張り合ってきたケースもありました。

奈良でこれでは、全国的に救済申請ができない患者もいて当然だと思います。

4. 本日のテーマである利益相反と患者の救済を阻むものとは

・救済を阻まれていると感じることは多々あります。

私達の被害の現状を厚労省役人に直接3回お伝えしましたが、いつも答えは同じく「安全性に重大な懸念はない」です。その安全性を評価する「副反応検討部会」というものが厚労省では行われていますが、私達素人には違和感があります。

・なぜ、委員達が製薬企業から献金をもらっていることを、あのように堂々と発表しているのでしょうか。しかもそれが1人や2人ではなく、2人以外の全員が、製薬企業より献金を受けているメンバーだったという回もありました。

・普通に考えて、そのような委員ばかりで公平な判断ができるとは思えません。また、救済制度の審査会でも同様に、そういった委員の発言権をなくして対応しているようですが、発言権のあるメンバーだけにすると十分な委員の数が揃いません。

・その状態で被害を受けた患者ひとり一人について適切な審査ができるのか、正当な評価がなされるのかと疑問に思っています。

■ワクチン接種後の体調不良で受診した際に体験した「不信感を抱いた医師の態度」

*アンケート回答者 39人中 34名が、医師に不信感を抱く体験をしていた（以下は一部を抜粋）

発症時の年齢	発症時の立場	不信感を抱いた医師の態度
13歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワクチン後遺症というものはない、気のせいですね」 ・「コロナワクチン後遺症のはずがない。自分の診断に間違いは無い」 ・コロナワクチン後遺症で受診をお願いしても門前払いされる
12歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・「子宮頸がんワクチンの時は嘘をついていた人もいますよ」 ・子供に対して『学校で嫌なことあったんでしょ?』 ・「コロナワクチン後遺症なんてものは存在しない」
12歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目のワクチンを打ってから胸が苦しくて高熱が出てると説明したのに聴診器すらあててくれなくて「様子見で。2回目もちゃんと打ってね」と言われた。 ・体調が悪くお風呂に入れないと言ったら「2週間もお風呂に入れないの（笑）」と笑われた。 ・血液検査で問題が出なかったから、思春期特有のものだから問題ないからもう来なくていいです、と矢継ぎ早に言われ、こちらが何か言おうとすると「はい、はい!」と診察室から追い出された。 ・血液検査で問題がなかったから、じゃあ何が悪いんですか?と尋ねたら、「わかりません、もういいですか?」と帰るよう促された。 ・ワクチン接種後から体調が悪く登校できないと説明したら、どうせ昔から不登校だったんでしょと言われた。 ・診断書を書いて欲しいとお願いしたら、そんなことに構ってるほどこっちも暇じゃないんだと言われた。 ・治療のできる他の病院を紹介して欲しいと話したら、ご自分で検索して好きなところに行ったらどうですかと笑いながら言われた。
15歳	高校生	「ワクチンはもう忘れなさい。お母さんがずっとワクチンだって言うから余計に治らない」「心配しすぎ。気のせいです」
14歳	中学生	スマートホンのしすぎと言われ、精神科を勧められた
15歳	高校生	大学病院の心療内科医「体調不良はワクチンのせいだと本人は思っているようですが学校、家庭環境のストレスからのものだと思います」
15歳	中学生	接種した病院より国に頼まれて打っただけだから、何かあるなら市町村が窓口だから市町村と国に言ってください。
12歳	中学生	<p>「どうしたらいいか分からないからここではもう診れない」と言われ、受診を断られた。</p> <p>「ワクチンでそんな事起きる訳がない」「気にし過ぎじゃないか」</p> <p>「気持ちの問題ですね。血液検査は必要ありません」</p>
17歳	高校生	ワクチンとは考えにくいですね、聞いたことがないので。検査結果に異常がないので入院させられません。させる理由がありません。

発症時の年齢	発症時の立場	不信感を抱いた医師の態度
14歳	中学生	「心療内科には行きたくないの?」「これ以上何を調べたいの?」
12歳	小学生	勉強のストレス、受験のストレス、不合格のショック、母親の過度な教育によるストレス、心因性だと言われた
16歳	高校生	聴覚過敏での受診時、「綿球でも耳にいれておけば?」。 「次回からは、診察に長く時間は取れない」
12歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・検査でどこも異常が出ず、この後どうしたら良いかと尋ねると、「こ・こ・ろ・の・も・ん・だ・い! (文字で書くとこんなニュアンスだろうか)」と一言返事が返ってきた。 ・2~3日の間に起こった体調の変化について、私が書いたメモを読み上げていると、「そんなの無駄やから」とずっと言っていた。 ・一人で立つことも歩くこともままならない子供が、ふらついたので手を貸そうとすると「お母さん!あなたのそれがいけないの!!それ(過保護)が子供をこの様にしてるのよ!」と、子供に手を貸そうとした私の手を叩こうとする仕草をした。 ・「ワクチンとは全く関係ない!」そう言って私の話を遮り、聞こうともしない。「沢山患者が待っているのに、あなたのところで1時間も費やした。迷惑だ。」と言われた。
14歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・大学病院の先生は「ワクチンの影響は何かあるんだろうけど、立場上あまりワクチンを悪く言えないんですよ」と言っていました。 ・体調が悪くて受診しているのに冷たい態度を取られたり、ただの風邪じゃないですかと言われました。
13歳	中学生	ワクチン接種後に出た症状だと伝えたが、ワクチン接種による影響かどうかはわからないとすぐに言われた。ろくに検査もしないし、効果のない治療を延々と続けさせようとする。
14歳	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・娘の毎日頭痛のある症状に対し、「本当に頭が痛いのか?」と言われた。 ・素人の分からない疑問、質問に対し、「そんなの自分で考えてくれる?」って言われた。
16歳	高校生	診断書を出してもらう際、学校以外に出せば医師が続けられなくなるので薬害などの申請をしないよう約束が必要だった。
16歳	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の性格を知らないのに(聞こうともせず)精神的なものが原因で精神科に掛かったらどうかと言われた。 ・ワクチンが原因じゃ無いかと尋ねた時に聞こえないふりをされた。次の受診時にもう一度聞いたら、コロナワクチンの事は分からないから!と開き直られた。分からないけど一緒に探して行こう!治る方法を見つけようと言って欲しかった。息子は病院嫌いになり、ど一せ何をやっても治らないと言うようになってしまった。

発症時の年齢	発症時の立場	不信感を抱いた医師の態度
16歳	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンの後にペンが持てないほど握力が低下していると相談すると、「ワクチンなんか関係ない、母親に甘えただけだからほっといたらいい」と言われた。握力検査で全力で力をこめても全然指が動かないのに、医師からイライラしながら「もっとちゃんとやって!」と診察のたびに何度も怒鳴られた。 ・ワクチン後遺症の診断書が必要なのでお願いすると、「診断書なんか書いたら、それがどこかに漏れて『ワクチンのせいで病気になるなんて言う医者はお前か?!』と周りから言われたらどうする! 責任取ってくれるのか?!」と大声で怒鳴られ、診断書はどんなにお願いしても拒否された。その後まだ症状も強く歩くのすらやっとの状態なのに、ろくな説明もなく検査数値を指して(標準値下限ギリギリ)「ほらこれ標準値でしょ、もう治ってる」「あなたもう来なくていいから」と一方的に診察を打ち切られた。 ・何年も通っていたかかりつけ医には「僕がワクチンを打ったわけじゃないから関係ない」と言われ、「そもそもワクチンでこんな症状になるはずがない、検査に異常ないんだから心の問題です、心療内科に行きますか?」と言われた。 ・大きな病院への紹介状をお願いすると、嘲笑しながら「紹介状は書くけど、絶対これ100%心療内科案件ですけどね!」と言われ、紹介状に心の問題だと書かれた。 ・診察待ちの時に倦怠感がひどくなりベッドを借りて横になっていたら、「病院に来れているからたいしたことないでしょう」とベッドに寝込んでいる本人の目の前で言った。
16歳	高校生	ワクチンの影響ではなく、思春期に起こることだからと言われた
17歳	高校生	・potsの専門医がいる大学病院で、ワクチンの後遺症とは認められないと言われたが、色々話しているうちに、 国が変わればワクチン後遺症と認める事に協力しませんでした。
20歳	大学生	「申請しても軽いので門前払いだよ。」と言われた。大変な状況なのに軽いと言われたことが、ショックだった。